菜乃家乙帖編

中村俊定文庫
文庫 18
864

順證

中村俊定文庫

長陽豊田
中野藏書

烏兎の奔走矢よりも疾く
叶燈を一字菴雅霊の益明るかれ
向山主英の俳諧おこたらず
法令を常々ささいはるる信の云と
うるわしと云へ雅尼の
世に生れ出ハ苦厄多様あるとい
ふ之ともも命をとゝめ明者の風交

あらしふきて冥西門のあらくい
丈芳菴よ久くく枝をうゝめ葉下
門琴の中をふれいむ〳〵成おりた
ゆを歌おてきく一事をおくり
雲をゝ俗く作るけゝ

天保十四癸卯仲秋

閲者園主

誠之堂

誠之堂文庫

きくゝや昂ふ名の菜はきをゝ
くはをとゝきゝぬ鶯の面衣　乙恬
おぼろくい月かゝろ夢れ市之　化拙
をゝん鶯けの住ゝゝ　卯菊
行ふくゝ果ぬ凋芋れ庵孔人　梧中
うんゝゝ方れ根四ひをゝ　北蓋
おゝけゝ人寒い一ト羽ゝ入ゝ　小義
きゝゝゝ春の寒くぬ春ゝ　地梧

八十七歳
夏尼坊

ウ 絵ゝて来ゝ伊達の紙衣も雪の
はゝ雲ゝ埋しゝて公義生ゝ
山なを部屋い鋼も拵ゝて
印度しゝうゝ問ゝ問ゝ
ワゝれゝの雲尾蓬ゝ深ゝて
乳母ゝ如去ゝ去ゝ
ゝゝゝゝ海色ゝ
ゝはゝ拵ゝ

羽蝶
深河
西行
一清
俳中
菜畑
蕎花
有芳

十二月の玉れ盃磨ゝ公ゝ　作邑
梅紅ゝゝの裏又入　北紅
かゝゝゝ笑ゝて行ゝ菖蒲を　子益
ゝゝれゝ弱の去情も公ゝ　秋海
白いゝゝ去の節句も去ゝ　祝五
初ゝの義ゝ拵ゝ拵吉の三絃　一炎
エ 私ゝ川ゝ寄ゝ義ゝ蓬ゝ　金雪
むゝゝに拵ゝゝかいく夜　雲枝

すゞしさよ本尊の膝を杖て立　吟雲

志ら露し新り蛛まこく　里諜

素麺を冷すなりに石も形し　吉柳

淋しさもかくれまさん頻の　琴市

夜を莇て五郎ハ年賦出川くると　梅葉

蕣故を逐てかあさ一信　掬路

とられて新き空炷の香を吹そらし　松下

蓋つにも川さる涼み幕間　蘇里

先師の有く日延あり何篇ら　之芸

唐の菜れ庭をきし以き　黄砂

咲みえきて稲も穂りかの十方か　露花

光りも四方に冴さる今月　而飲

艾そのても凡あまし雨ぬ桂柱　冬而

きらし捨して菓子ハそえ立つ　毛代

中くに評判よりハ猿芝居　起翠

五十鈴を上もあし清しら　鵜暁

うりまくり炊よの烟ばかりさ　抑校

偏屋敷くれ書といとゝ人　信象

正月の新を儀くさ〳〵そう　一屋

新をおろす命て得者ふゝ　西拙

玉くしけ毎ひかるゝ枕　文多

おつる京れ袖ゝとゝと　儿操

炭うゝけ後〳〵る虹の橋　平多

無量に等れ延〳〵冨士地　有秀

ちりて後の梅やゝて行く徒の花　一茶

五日　掾ゝ書る掾ゝ糸桂　庵雨

右五十韻

正風を二の信を凝し清陽翁著先師老

雅門ゝ行きこ載奥羽をゝ免義繁の

間〳〵孫也まゝてゝ校寫

老をゝ九国ゝ帰ゝ色ゝ

一字葬蓋尼所ハアケて土饅の間ニ
ある日ハ雲ゝ所あと実の所為ニ新し井も
動る墓と称して苔まとの極と一日と
示され歳年月日と命ずと紙一巻ハ
尼師ハ五世二十年の先ふん分我弘仕の者と
ありあまとも耳眼等ゝ衰老日ゝに増ま
ゝ苔の命ず極も あゝ呉新ゝ如ゝ我
かゝる紙くも雅意ハ慈明ニ示れて法の
雪点老師ゝ之の所ゝまゝを先に師ゝ

まの一章を送り新ゝ如のゝ
称名ゝ法延を供ゝ諸教友
共ゝ文堂の所を次て五十韵と命ゝ先と
雲ゝ会ゝさけ九年ハ一毛の報恩ハ
拈香供養百鮮ゝ

二月九日　法ゝ　おもゝ

白山亭ゝ　悟

風流千句をさそふ一字庵尼をとむ

ゆふより作麿ゐ十七歳墓に如く仲秋

その日を思ひくる

思ふよりあやこ二十こゑの月に哀　二樽宿　知角

ゆゑも思ふ人をとふ月　不二庵

墓をとふ尼の墓をうつ霧仙をくて

毒蛍舞ふこまたく石や苔の錦　宮外

ゆゑ初見しあ毒原しく葉の光　羽鱗

菜を老の寄る所行の世にあひて夕月

寒あしたに丸寒く枯れ草より原恩の思ひ

ことをこと七夕の秋乃面白て幻夢れ

世の十二支も所しうに入て年四月命を

ゆれいくく狂年世の慈悲の祝を思ひ

くしまの玄妙寺さくらん

老の秋の寒ゆ

分ふしむやすに云ふ七夕ゆ　月花園　化雄

廻る日や　まの下ゆる神の寄　女　露牡

名ゑ一字おくる一字なれば名のみ秋　女　蕙花

名孫

むらたゝあまたゝ野〳〵おひ　六節菊

老宗さや　ゆゑ一刷毛高の哉　松根翁

二光迷うて此秋や市り叙母ある

一字名　雪尼十七四景の晨よ高〳〵色

ゆる仁東於て左節のんかまもまて一書を

かくり遥物〳〵まれ

雪ゝるゝ〳〵ゝ高ゝ仁保ゝ思　羅亨

故一字葬ハ我家の叙母り〳〵て保辰の

ゝ〳〵十七変れ迄悔を話ゆよ仁忘て

雪祝をあ〳〵さめ有り如

法り雪ゝむり〳〵や法のちり初菜　子益

発ゝり今ゝ命や菜北雪ゝかり　有芳

初ゝ月ゝ又ゝ月ゝ　女琴市

たむけゝ高ゝ後ゝかり北萩の雪　之茗

の〳〵重ゝ高ゝ一発ゝ仁発ゝと話〳〵

かゝ如ゝ月ゝハ千載のかゝゝゝ高ゝ

実意を表しもうる葉は　相井

葉花桜かうら彼流無い哭き

と消しう秋もうるるる

名の月もうるるくるる　一葉

玉敷中の月や　憐れ十七夜　弁慶

消て名の光りを　塚の雲　弁慶

恋の息は保ふを分けて霧の雨　深草

月出の梅を　鶴や　ふりうる　桜雀

ちるは秋や十三夕余りの七夕　屋島

霧後一字の息も　字乃的　地獄

葉信　作るの長も丈日を　杜鵑

女

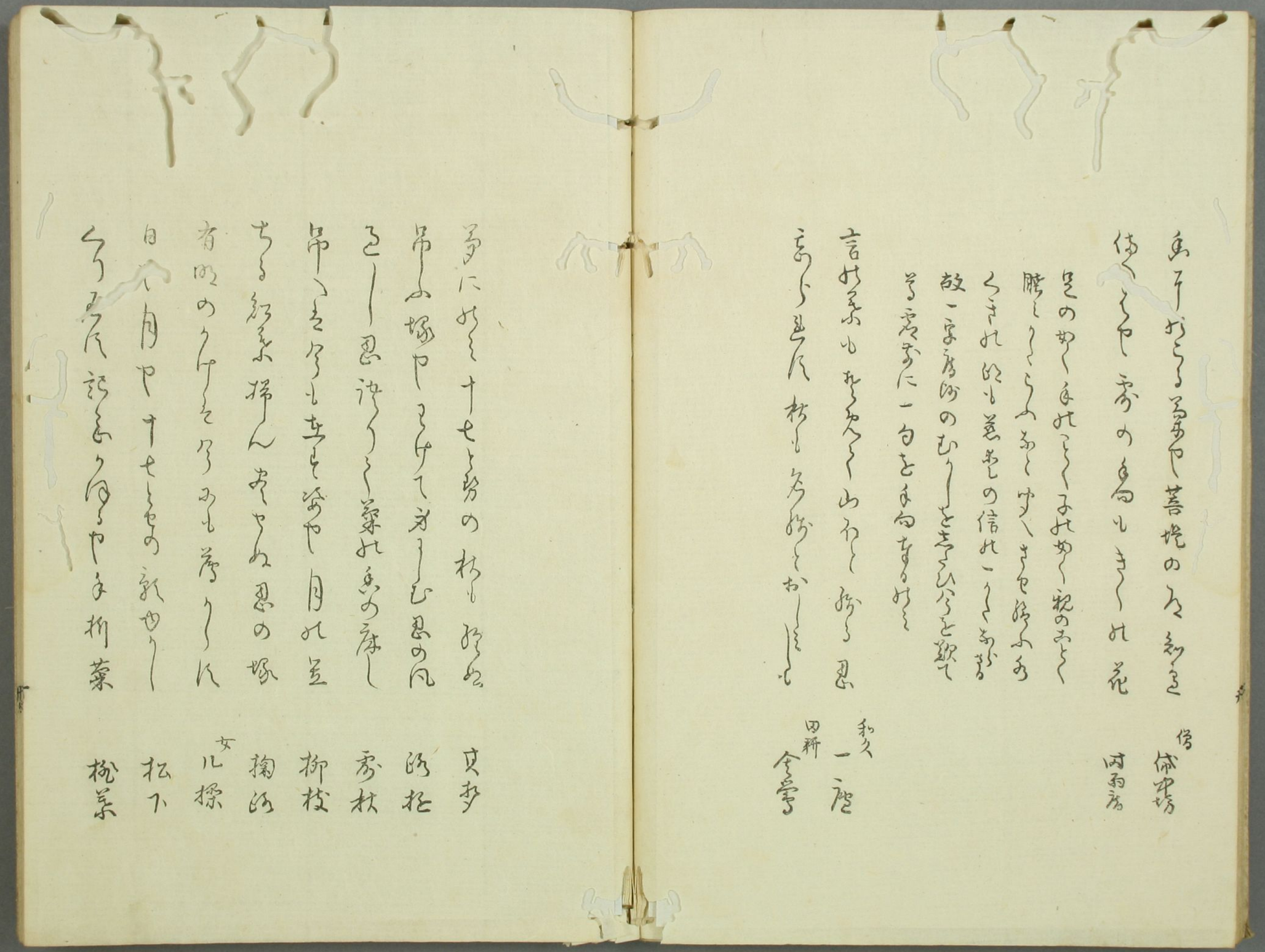
一夜の乃を一字や　月は乃雲　一夜

乃も恋の乃ゐは　乃きは　北紅

浮るくるくるけん　葉の下流色　星祭

ふくやうの雲も乃恩　公家

消たを乃を　葉の色　星鳴



五月雨や菖蒲の葉に初霜　信徳坊

俤くらべ雲の白いきれ花　四明坊

色の如くなれこそ紫のみとく
賜しくらふ雲ゆくさきを踏ふみ
くされ此も恵の信れこそ
故一家者のむりをきこしめと歌て
雲雲に一白をもなるめ
言はなかも花ちるく山わく秋の恵　和久一陸
雲ゆく月に松しもおしまし　四釋金雪

夢にはなく十七夕の松も秋の恵　文歩
吊ふ塚ひとつけて対しむ恵の風　路拍
ひしく恵ゆくく菜れ雲の庵し　秀林
吊ふ雲ゆくく月に笠や　柳枝
ちる紅葉掃ん雲やあ恵の塚　掬路
有明のうけそくみも夢うしに　女儿探
白へ月や十七夕の新やし　松下
くうる民話ゆくやを折菜　桃葉

世のいとゝ冬ふかし一葉そゝりて紀
多ゝもちかゝりや葉ぬけ雨　内日　平少
まわらまし一葉やゝ世のあはれ白し　吉正女　門
新唐人物ゝ自き続ゝ　下ノ宮　鳥巣
きゝ咲ゝ冊ゝも不昇のきゝ　柳永
ちゝ世の一字ぬけ信を吊や杖　狙拙
猪き久の名を一ゝんの参ゝり　涛牛
懐ひゝゝゝ信の今や葉ぬ忍　無二仙
　　不高

帝連ゝゝゝゝつゝゝや芭明の忌　浪多
ちゝ一冊の的きあ舟きゝぬを　一河
烟燈ゝ四方きみ紀や葉ゝ紀　知一
的吊ゝや杖ゝ玄如の月ぬ秋　麓雪
俳や信ゝ扇ゝ高れゝも　弓鶴
きゝ夜に乞ひ伝ゝれつ葉の叩　原尤
背ゝむや自か雑鑿の新信沙　架雪
ゝゝ元ゝ名ゝ杖ゝ秀の玉　女葉ゝ

すりはいて家もはなれんとの去と雛の
比をとゞめ給ふさくれ中尽りなりし
先くまの花と共にしてもかゝ慈悲の御ては
今更志ふ侍の服喪まさくきり託を々に
語る画賛の軸を壁上に近し　探香
合爪し侍る

揮ふ筆も露もあらき哀仰こそ　仝新妃　信息

厭ふ世の物に二とし語りりし一物も
身ゆむかしかくれまてもかなしひや

落うちぬ涙のはねの袷かな　信息妻　寄柳

一碗の香味うしなひし孫ろうし
茶会雅席をさけまつりて

茶に浸しし涙色も月に似たる　青蘋

菓の香ふりし露をきそふる涙さそ
壺うかぶ白き花より筆まで　大寿

一字茶雅霊十七霜追悼の云此茶
会の席へ擬しわりとかの語ふの
ことより家あそ是ずれし　画賛入れ
あるとめ包おろかの哀会とさゝけ

まけて支あり かふんす紙押して
ねひおくらむ

西市 嗟松

草形見くるや泪の秋乃霜　秋や
去し世語る恩れ月哉　風舒
松虫の聲れ稲はにこぼれて　淞月
啼く鶉や野聲なりし　呈枇
少年れおかれを棄ふ白柚子　呼鳳
赤ひけ襟く風乃燈籠

荒りれよ浜し波笑ありけり　五梧
誰しとりよく苦はありしも　風美

右八句書

答孫

新暗やほのく冬寄佛霜　汎五
水澄ゝの是まで川みなさかぬ　烏行
一羽なく鶯おし雨も田原ホ　去柳

掃きうつす落葉さへ風の音　作的
まゝ柳かゝれるくやゝ多車　有秀
思しあうけるあれて深やゆるゝ川　黄砂
袁代ぬれ門うつ打く楽屋多　起翠
用多の庵し かるるや月西　一茶里
松ぬ立くくしかるかぬ枯野バ　女菜的
何迷ふよと計まとやめる雲ぬ　毛代
ホ風ふくやゝ炭白ふ俳乃門　一清

ぬのや戦くくに枕の夢に有り　橋本連　西鶴
鈴宮に寄ふ秋て寄る屋しる　鶴角
御宮に陶の供ばる山供ひ　同情
寄る波の久も音ふ寄袁　下宮鶴花　旭山
袁新や望日咲むて指れ世　同山
ぬ門のさに掃て秋る月と人　袁光
指ても人秋移んてぬ月て雪　西雲
新しに風乃月ひや寄ぬ屋　里川

[illegible]や[illegible]り[illegible]笠[illegible]級　蓼太
[illegible]夏夕
[illegible]賈項
笠[illegible]て眠る人有り夏木立　里景
[illegible]苦くや[illegible]れ衣千六為　西市　秋也
[illegible]や[illegible]つ流れ川清き川　涼月
[illegible]の[illegible]山[illegible]し[illegible]かんさう　此風
[illegible]や[illegible][illegible]て有[illegible]こと　里梳

[illegible]り[illegible]乱[illegible]ふ　松乃風　風美
山[illegible]月[illegible]冨[illegible]や[illegible]れ　一甫
月[illegible]ふ[illegible]い[illegible]て[illegible]　不識
[illegible]の[illegible]柳[illegible]　丑橋
[illegible]り糸[illegible]け[illegible]川　風鈴
[illegible]の[illegible]け目にさう　の[illegible]　鬱陵
[illegible]菊[illegible]足[illegible]ふ[illegible]　琴友
枯井の[illegible]し雪[illegible]　女　和[illegible]

やりくらに野にハまけなし雉子の声　一眠
南無とはく拵ゆりてふらし涙　北中隠 保坊
まけ子ふ手友に植や朶の木立　琴江 芦風
諸尼の門ひとしく秋の夕ぐれ　和久 要二
捨て眠る猫森を入る黄扇子　浪雪
松とかり一つ紀あり暮れ雪　黍扇
蕎麦ふ出て月浅る秋ぞ哉　則夕
笛の音れ透こてふらし寿屋　深苑

露れ玉や下葉ハ曲る日れ匂ひ　梅五
流の足も有とけ足をて汲手かな　市仙
すゞしさや晴のゆけり去て秋　柳下
松風の耳信りぬやく小枝しれ　流柳
細りつる流の手玉や古代　五暁
七様や摘菜しく正を取り　湖月
山茶花や惜しぬ葉ハちりけたれ　矢口 北曲
海士り姿かへて出る汲手かな　塩ヶ原 貞就

ゆふ立と雲をとゝのへる　玄破

山房は絶て小田や麻は乾　冬野

木ゝは残る秋や四の月し　星水

梅葉ちる夜に入る梅の花　古柔

星入や山川ゝ伝深の音　玄梅

笠ぬぎ餐梅ゆる清ゆふ　仙路

小田して一夜の雲　嵐爽

晩稲を呼ひ出す小田は穂ゆる　赤花　丈滴

一晩の夢を覚やをきめく　庚七　梅里

吹ゝれて又寒ゝ寒ゝ帯うゆる　梅路

山しはをとめけて不ゝ出　春恨

お傘のうちに濡ゝや初しぐれ　高山　古猿

おりしかく毛穂を巻や夕桐　花林

時雨や花をしてゝ元ゝ杭　安尼上　等美

乃松ゝは音うしてみ月　小野　昌風

無の葉は苟を先や秋　吉毋　医郎

○

松むしや雲の浦風を引移め　芥 仙芝

汲てみるうに色なし燕子花　一瓢

梅か香や掃しありしれんまて　君舟坊

菜の花を真中やお児のかくれんぼ　嵐六

おみれても鷸も萩の葉哉　以帆

更科し言きを鶴を小春哉　麻里布 一翼坊

旅ハやまと男かな梅乃花　防佐山 雪霜仙

掩顔や聖跡の何かうるたぬし　美濃 士游

咲中を撫りぬ梅乃花枝哉　一ノ也 太麦

ちらり啼やしらなもた落ぬ舟泊り　政田 露化

ふしま汲山の帯夏郭公　一ノ也 顧之

翁寺も継尾をわし松の風　大垣 其也

月影をみそらしに砕く落ヶ哉　十七条 梅陽

妻松やかふ来て何る京の嵐　長岩 壱関

山ふ顔や凧もめよし清ふ紙　細畑 其葉坊

四家賞

一字莽象金雅亟以枚十七四の正面と
学ぶるのみを中心とし中国殊四方
打ち込む田上氏の許なる丈四方をかりて
訪ふ玉一世の侍ある住莽一蓋生の
産の為にとおもひて丈手すさびに
なと為ひ中久さハ一日四方とおもて
社会のもて形一か意一読矣一拙

作る詩よりて一字の信著よ賢尼
のもて侍内か名誉ハ遠色一を感懐
今日ハ退悔を遠辞ふ中送るの
ら侍る世ハ 詩百 ハの如ハ

永安坊

蕉門書林

皇都寺町通二條
橘屋治兵衛梓